

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年5月5日

Nature:COVID-19の流行の行方：インフルエンザのような季節性流行よりも、小規模の流行の繰り返しとなるか

【松崎雑感】

今回の要点。死亡率から言って、新型コロナは未だ、インフルエンザの10倍怖い疾患です。

感染に弱い人々、高齢の方がを守る体制をゆるぎなく続けましょう。

しばらく大きな流行がなかった日本は、これからスパイクが起きる恐れがあります。マスク、三密防止、行動規制など、ゆるぎなく続けることが大事です。

COVID-19の流行の行方：インフルエンザのような季節性流行よりも、小規模の流行の繰り返しとなるか

Callaway E. COVID's future: mini-waves rather than seasonal surges

[published online ahead of print, 2023 May 1]. *Nature*.

2023;10.1038/d41586-023-01437-8. doi:10.1038/d41586-023-01437-8

パンデミックから3年経ったが、インフルエンザのような季節性流行疾患とはならないかもしれない

サージ、スパイクという呼び名はどうあれ、再び世界各地でCOVID-19の流行が起きている。検査陽性率が高まり、既存の株に替わり、新たな派生株XBB.1.16が増え始めている。

専門家は、COVID-19がもはや医療崩壊をもたらすような爆発的流行をすることはなく「小流行wavelet」時代に入ったと考えている。つまり、次々と新変異株が発生するが、ほとんどが軽症で済むおだやかな流行パターンとなるわけだ。

小流行は、多くの入院と死亡をもたらす重大なスパイクとはならず、その影響は国ごとに異なるだろう。しかし、COVID-19の小流行は、インフルエンザや通常の風邪をもたらす季節性コロナウイルスのような年1回の季節性流行とはならないようにだと専門家は考えている。

シアトルのフレッドハッチンソンガンセンターの進化生物学者トレバー・ベッドフォード氏は「COVID-19の流行サイクルは長くなってはならず、一年中流行が続く呼吸器感染症となっているようだ。冬だけに流行する疾患とはならない可能性がある」と語った。

変異株の勝利

3月にインドの専門家は、XBB.1.16と言う新変異株がインドで主流株になりつつあることを突き止め、今後世界各地で新しい変異株が、既存の株に置き換わって流行するようになるだろうと考えている。

プレプリントサーバーにこの見解を発表したカリヤカルテ氏は、昨年12月から今年4月はじめまでに300例以上のCOVID-19を解析し、XBB.1.16が、既存のオミクロン株と同様の軽症感染をもたらし、死亡や入院リスクが低いと述べている。

WHOは4月17日にXBB.1.16を「注目すべき変異株」に認定した。しかし、この株などが新たな大規模な流行を起こす可能性があるかどうかは、それまでの流行状況によって大きく異なるだろうから、明らかなことは言えないとしている。

ベルギーの進化生物学者トム・ウェンセラーズ氏はXBB.1.16が米国で急速に流行をはじめ、地域によっては11%がこの株であるとのべている。

最近XBB.1.5の流行があったばかりのヨーロッパでは、この株の流行が若干早く終わった米国より流行が小規模で遅れている（集団免疫のため：松崎）。

小流行、サージ、流行間隔

ベッドフォード氏は、新しい変異株が頻繁に出現した国や地域では、1年間に3～4回の流行の波が起きたところもあると述べている。現在、新型コロナウイルスのスパイク蛋白の変異速度は、季節性インフルエンザの2倍、いわゆる風邪の原因である季節性コロナウイルスの10倍となっている。

インフルエンザや季節性コロナウイルスが冬に流行するサイクルとなっているのは、冬に屋内に密になる時期があって感染が促進されることも一因となっているだろう。ウェンセラーズ氏は、ウイルス変異が速く、感染免疫が短期間で減衰する事で新型コロナウイルスが年1回と言うゆっくりした感染パターンでなく、1年に何回も小流行を起こすのではないかと考察している。

短い周期で流行を繰り返すため、新型コロナウイルスの感染者はとて多くなる。現在は中止されているイギリスの新型コロナ感染状況調査によれば、昨年
の新型コロナ年間罹患率は（全住民の）100%に達するとベッドフォード氏は述べた（「昨年風邪をひいたことがありますか？」という質問にほぼ全員が引いたことがあると答えた、に匹敵する：松崎）。

将来新型コロナに感染したことがあるかという質問には、ほぼ50%の人々がイエスと答えるようになるだろう。ちなみにインフルエンザの年間罹患率は20%程度である。

インフルエンザと比べて…

そうは言っても、新型コロナの流行状態がどうなろうと、今後、パンデミック初期のような大きな健康被害は起きないだろう。

ヨハネスブルクの国立感染症研究所公衆保健専門家ワシラ・ジャサット氏は、南アフリカでは、COVID-19による入院と死亡が増えると同時に、迅速に警報が発令されるシステムが整備されたと述べている。彼女は「ここ数か月では、COVID-19の増加は見られていないようだ」と語った。

オミクロン株が出現してから1年半経った現時点でも、COVID-19の死者率は、インフルエンザの10倍となっているとウェンセラーズ氏は述べている。しかし、感染の波が押し寄せても、入院と死亡に至る人々の数は低下しつつある。彼は「数年のうちに、新型コロナは普通のインフルエンザと同じレベルの感染症になるだろう」と語った。